

2026年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)



2025年8月14日



1. 2026年3月期 第1四半期 決算 トピックス



2026年3月期 第1四半期 決算ハイライト

1Q期間でのノロウイルスの蔓延の影響と、コスト上昇で減収減益

1

2024年2月から発生したノロウイルスが全国規模での蔓延となり、当社の安全基準を満たした生牡蠣の調達が困難となり、店舗事業、卸売事業ともに、繁忙期における機会損失が発生。その影響による売上減、原価や人件費などのコスト上昇により、売上高766百万円（前年同期比15.8%減）最終損益△71百万円（前年同期は△37百万）となりました。

営業損益は、△79百万円、最終損益は△71百万円

2

店舗事業では、原材料費、人件費の高騰など販管費の増加により収支が悪化、セグメント利益は△16百万円（前年同期はセグメント利益20百万円）。卸売事業もノロウイルスの影響などで、牡蠣の供給が不安定となり減収となるが、販売先数の拡大効果により、セグメント利益は20百万円（前年同期比2.7%増）。親会社株主に帰属する四半期純利益は△71百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失37百万円）。

通期配当は10円を予定

3

株主優待制度を2024年9月末で廃止した一方、株主還元に関しては、連結配当性向30%を基準としつつ、1株あたり10円を目安として配当を継続して行う方針に変更。

5/23 FC3号店NEW OPEN！ エイスシーオイスターバー 和歌山店

4

既存事業の強化・拡大に加え、ブランドポートフォリオの拡充（新規ブランドの開発及び新規ブランドによる新規出店）に伴い、当社のフランチャイズ3号店オープン。

2025年6月末日現在の店舗数は、30店舗（直営店27店舗、FC店3店舗）となりました。

2025年3月期 第1四半期 概要

売上高は766百万円（前年同期比15.8%減）と減収。営業損益は店舗事業が原材料費や人件費の高騰などによる販管費の増加により79百万円の営業損失（前年同期は45百万円の営業損失）。

親会社株主に帰属する四半期純損失71百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失37百万円）。

	2020年3月期 第1四半期 (参考・コロナ前)		2025年3月期 第1四半期		2026年3月期 第1四半期		前年同期比 (%)
	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)	
売上高	803	100.0	910	100.0	766	100.0	-144 (+4.2%)
売上原価	280	34.8	350	38.5	256	35.6	-94 (+6.3%)
売上総利益	523	65.1	559	61.5	509	64.3	-49 (+3.1%)
販売管理費	594	73.9	604	66.5	589	63.5	-15 (+4.6%)
営業利益	△71	△8.8	△45	△5.0	△79	0.8	△33
経常利益	△70	△8.7	△46	△5.1	△80	0.7	△33
特別利益	-		0		-		
特別損失	-		-		-		
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△63	△7.9	△37	△4.1	△71	1.0	△33

- 1 店舗事業の
販管費が前年
より増加
- 2 店舗事業の
営業損益はコスト増
により収支が悪化

第1四半期 連結業績について

売上高はノロウィルスが蔓延したことなどによる影響により減収。また営業損益は、店舗事業の原材料費や人件費の高騰などによる販管費の増加をカバーできず、四半期営業損失79百万円（前年同期は四半期営業損失37百万円）。

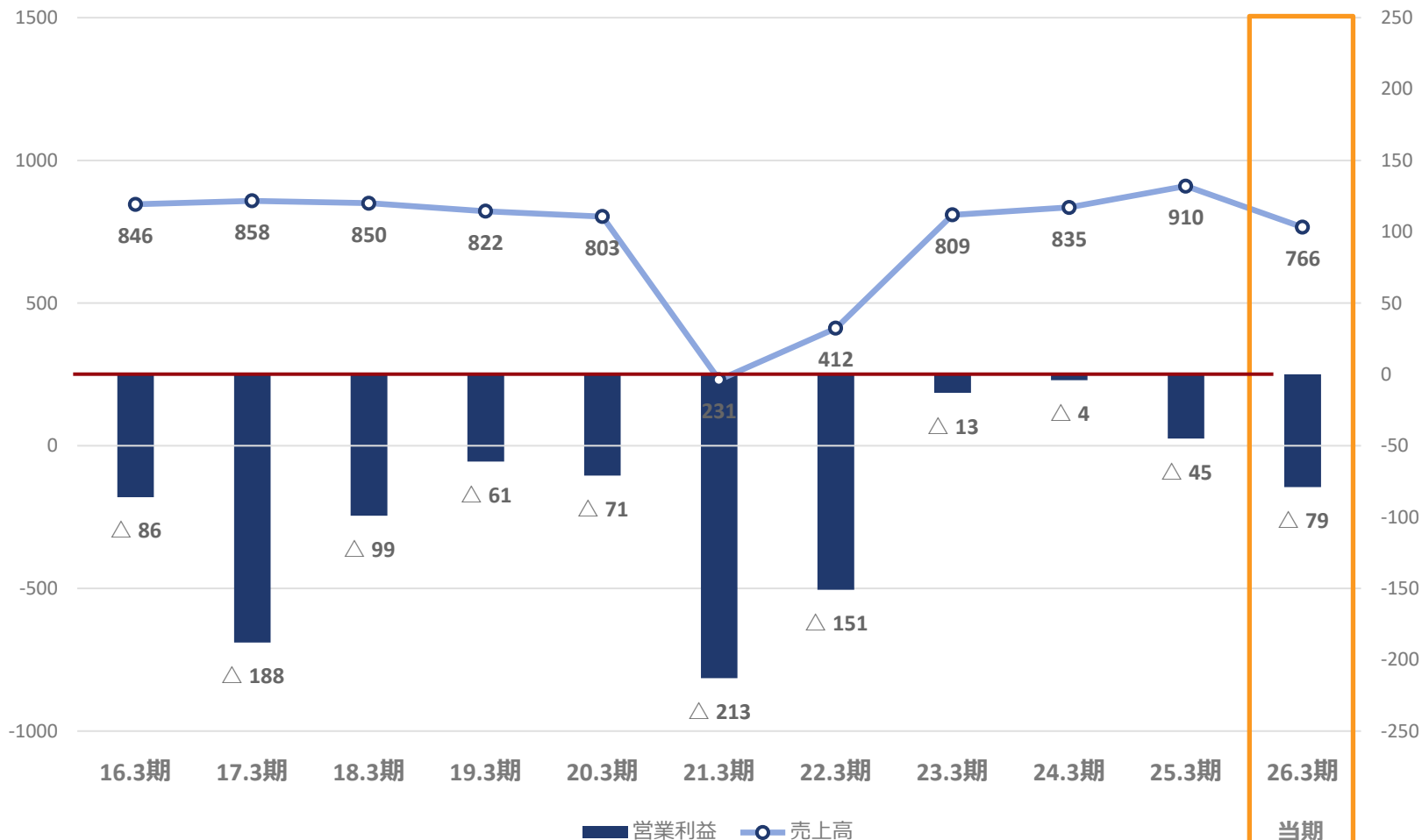
（単位：百万円）

売上高

7.66
億円

営業利益

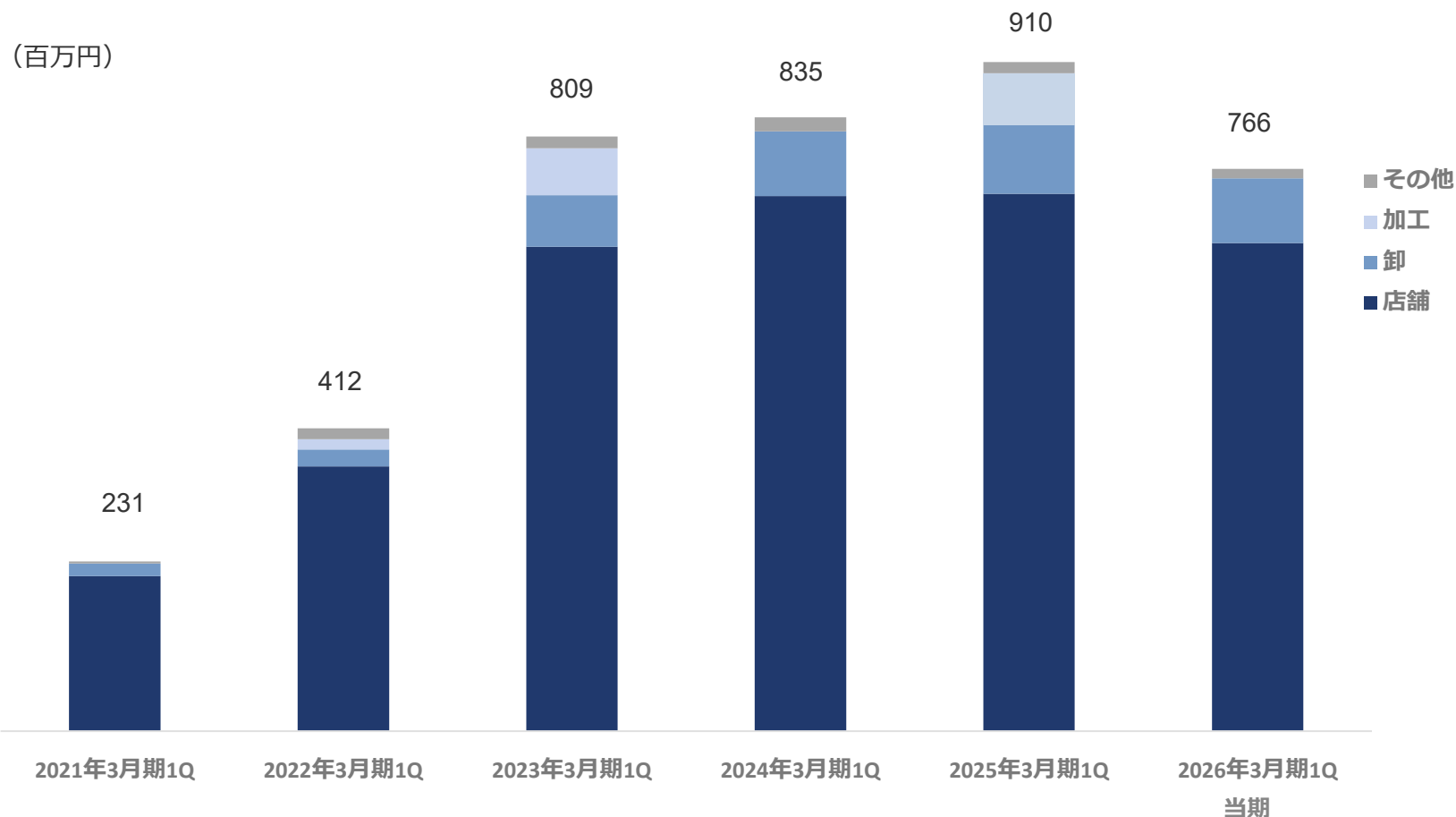
△79
百万円



第1四半期 連結売上高推移

グループ全体では、前会計年度の第4四半期（1月から3月）にかけて、ノロウイルスが蔓延し、当社の安全基準を満たした牡蠣の調達が十分にできなかったことに併せて、感染性胃腸炎の流行もあり機会損失が発生。その影響が当2026年3月期第1四半期まで続いた事により、売上高は766百万円（前年同期比15.8%減）となりました。

1Q連結売上高推移



貸借対照表概要

2025年6月期末の総資産は32.07億円、前期末比-1.32億円。
自己資本は13.40億円、自己資本比率は41.2%。引き続き、収益力を高め、財務基盤の強化を図る。

(百万円)	2025年3月期 期末	2026年3月期 第1四半期		2025年3月期 期末	2026年3月期 第1四半期
資産の部			負債の部		
流動資産	2,173	1,981	流動負債	1,113	1,074
現金及び預金	1,220	956	買掛金	103	86
売掛金	181	183	短期借入金 ^{*1}	80	80
原材料	73	98	その他	929	908
未収入金	3	2	固定負債	815	792
その他	691	740	長期借入金	289	269
固定資産	1,167	1,226	その他	525	522
有形固定資産	767	818	負債合計	1,929	1,867
その他	10	9	純資産の部		
投資その他資産	388	397	株主資本	1,411	1,340
敷金及び保証金	284	284	その他	△0	△0
その他	104	113	純資産合計	1,411	1,340
資産合計	3,340	3,207	負債純資産合計	3,340	3,207

*1．1年内返済予定の長期借入金を含む

2026年3月期第1四半期 セグメント別業績概況

店舗事業の営業利益は、原材料費や人件費の高騰などで収支が悪化し、セグメント損失16百万円。卸売事業もノロウイルスの影響で、売上を伸ばせず減収となったが、販売先数の拡大が寄与し、セグメント利益20百万円を計上。グループ全体としては減収減益となった。

セグメント売上高

セグメント利益

(百万円)	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	前年同期比	増減率
店舗事業	731	664	△67	-9.2%
卸売事業	93	88	△5	-5.7%
加工事業	77	24	△52	-68.4%
浄化事業	185	185	0	-0.1%
再生可能エネルギー事業	—	—	—	—
その他 ※1	15	13	△1	-12.3%
調整	△192	△209	△17	8.8%
合計	910	766	△144	-15.8%

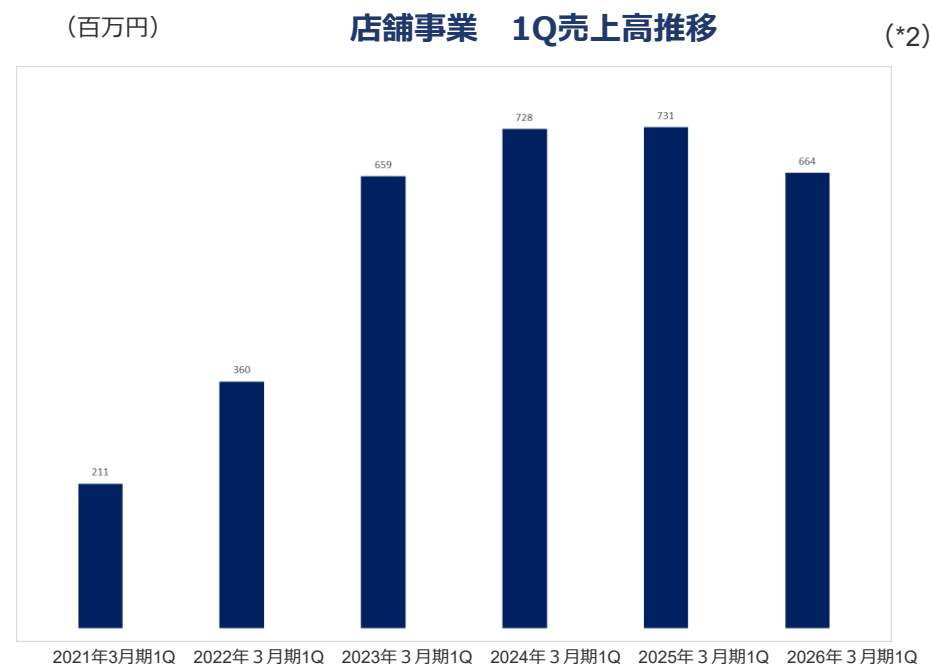
(百万円)	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	前年同期比	増減率
店舗事業	20	△16	△37	—
卸売事業	19	20	0	2.74%
加工事業	△11	△13	△2	—
浄化事業	△9	△9	0	—
再生可能エネルギー事業	—	△0	△0	—
その他 ※1	△1	△0	1	—
調整	△62	△58	4	—
合計	△45	△7	△33	—

*1 : EC通販など

*1 : EC通販など

2025年5月、FC3号店として「8TH SEA OYSTER Bar 和歌山店」をオープン。店舗数は30店舗（直営店27店舗、FC3店舗）となる。ノロウイルスの蔓延による機会損失。原材料費や人件費率の高騰により販管費が増加したことなどの影響で、減収減益となった。

(百万円)	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	前年同期比	増減率
売上高	731	664	△67	-9.2%
営業利益 (*1)	20	△16	△37	—
営業利益率	2.8%	△2.5%	△5.3pt	—



(直営店舗数)

25店舗

26店舗

25店舗

27店舗

28店舗

27店舗

*1. セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

*2. FC店舗の売上は、ロイヤリティ収入のみ計上

店舗事業（出退店及び店舗数について）

FC新規出店1店舗

⇒2025年6月末全店舗数：30店舗（直営：27店舗、FC：3店舗）

	2025年3月期 期末 店舗数	増減数		2024年 12月末 店舗数	業態変更
		出店	退店		
直営店舗 合計	27	0	0	27	
FC店舗	2	1	0	3	
全店舗店舗 合計	29	1	0	30	

新規出店1店舗の主な内訳

・主要ブランド「8TH SEA OYSTER Bar」

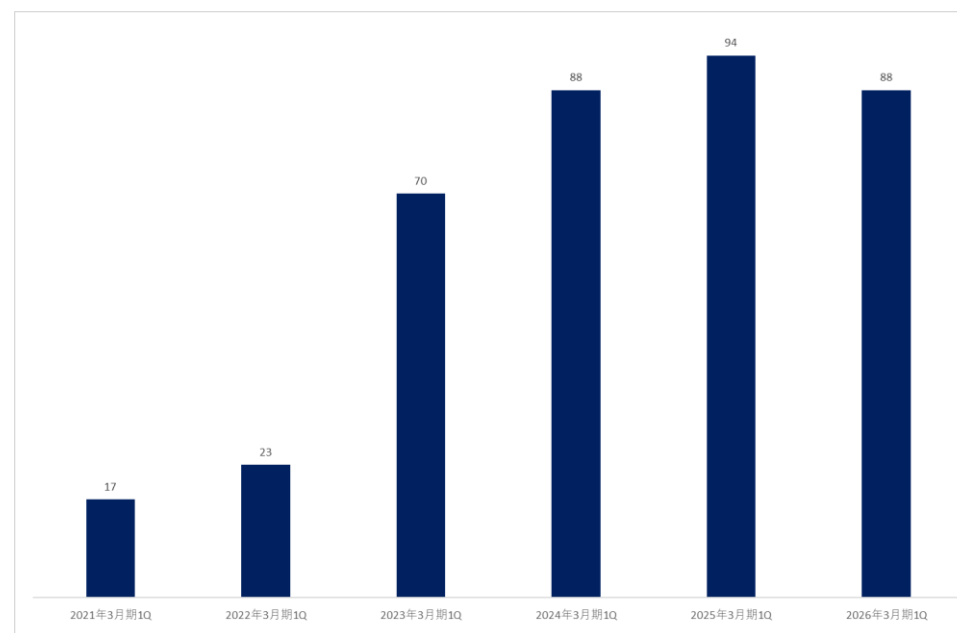
（FC店舗） 和歌山店（2025年5月）

第1四半期にノロウイルスの影響で売上鈍化となったが、食品展示会への出展など、新規の卸先開拓による販売先数の拡大により、セグメント利益は増収となった。（前年同期比2.7%増）

（百万円）

（*2）

卸売事業 売上高推移



（百万円）	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	前年同期比	増減率
売上高	93	88	△5	△5.7%
営業利益 （*1）	19	20	0	2.7%
営業利益率	21.0%	23.0%	2.0pt	—

*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

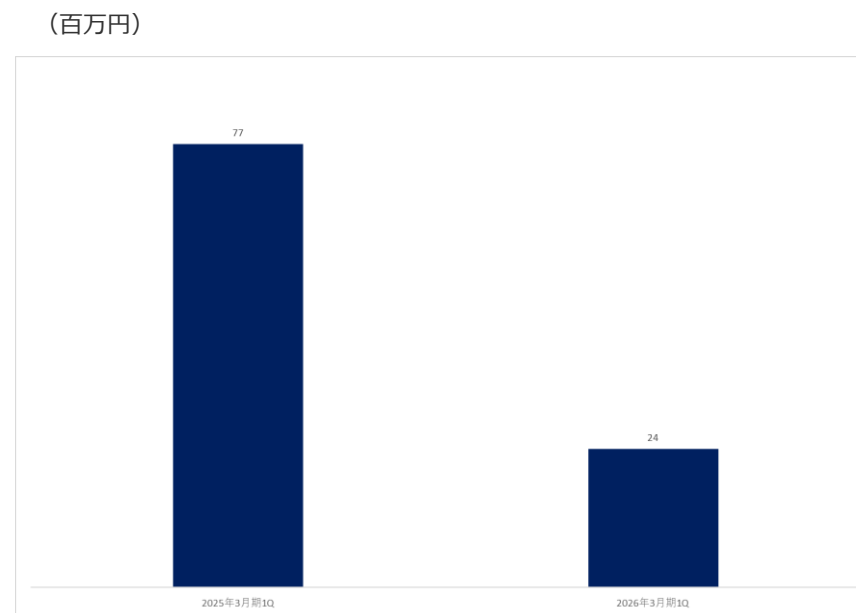
*2．FC店舗の牡蠣の卸売売上を計上

前期末より、従来のセグメント区分である「加工事業」に含まれていた「浄化事業」を独立セグメントとした影響で、金額に大きな影響が出ております。

加工事業 売上高推移

(百万円)	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	前年同期比	増減率
売上高	77	24	△52	△68.4%
営業利益	△11	△13	△2	—
営業利益率	—	—	—	—

*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。



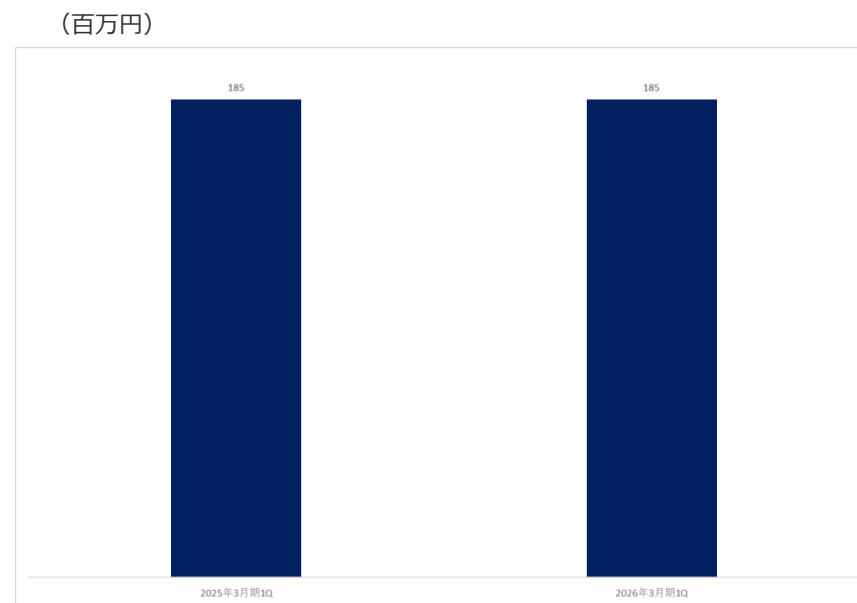
*2．グループ各社への売上は原材料費のみ計上

加工事業におきましては、売上利益共に前期比横ばいとなっております。

(百万円)	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	前年同期比	増減率
売上高	185	185	△0	△0.1%
営業利益	△9	△9	+0	—
営業利益率	—	—	—	—

*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

加工事業 売上高推移



*2．グループ各社への売上は原材料費のみ計上

2. 今後の取り組みについて



2026年3月期の経営戦略の見込み

禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	進捗状況	活動計画
『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	△	店舗事業の原材料費、人件費の低減に取り組む
再成長に向けた 『攻めの取り組み』	「EC通販の強化」など 販売チャネルの多角化	○	利益効率を考えた、告知活動へと切り替え収益性を上げていく。
	店舗事業の収益拡大	△	利益体質はさらなる強化を目指し、新規ブランドを立ち上げていく。
	国内卸売事業の収益拡大	△	付加価値を向上させ、更なる増収増益へ。
	加工事業による収益貢献	△	店舗事業のセントラルキッチン化目指して、収益性を上げていく。
	店舗事業のITを活用しての効率化	△	引き続き、推進
	再生可能エネルギー（太陽光事業）への参入	○	2026年3月期下期から収益化の予定

3. 2025年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

オイスターの安心安全の高付加価値化の実現し既存事業の立て直しと、再生可能エネルギー事業（太陽光）など新たな成長軸をプラスさせ、持続的成長の実現と企業価値の向上を図ってまいります。

(百万円)	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 連結業績予想	前年同期比 (%)
売上高	3,926	5,184	+1,257 (+32.0%)
営業利益	3	187	+183 (+5,314.0%)
経常利益	2	186	+18 6 (+9,163.%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△20	130	+150



免責事項

本資料に記載されている将来に関する内容は、当社グループが資料作成時点において入手可能な情報に基づいたものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。

特に当社グループの事業領域は、一般的な経済状況以外にも業績に影響を与えうる要因が数多く存在しているため、実際の業績等は様々な要因により将来の見通しと異なる場合があることをご承知おきください。